

おりじん

[O・R・I・J・I・N]

2022年
40周年 特別号

発行／(株)四季工房「おりじん」編集室
〒963-0115 郡山市南二丁目84番地
TEL.024-937-6351 FAX.024-937-6341
https://www.sikikobo.co.jp



これからの10年、四季工房が目指す家づくり SDGs and More

それぞれの大事な人に元気を届ける組織をめざして。



今年(2022年1月)は会社にとつて大きな節目の年となりました。それは私が30歳の時に創業した四季工房(と言っても、三和グリーンホームから福島エアサイクル住宅、そして四季工房へと社名も三回変わりましたが、)が2022年1月で40周年を迎え、その間につくり上げた住宅は、約4000棟となり、わたしも2021年12月に満70歳になりました。創業して20年間は、住宅着工数も年間約150棟前後を推移し、私どもが打

ち出した国産材と自然素材、そしてパッシブソーラーハウスのエアパス工法がたくさんの方々の共感を得て受け入れていただきました。しかしこのようなどことはいつまでも続きません。日本も少子高齢化で人口がどんどん減り続け、そしてあの東日本大震災と福島原発事故を境に社会が大きく変わり始めたように思います。「世の中って、たった20年でこんなに変わるんだ」というのが私の実感です。

そして、今までの家づくりを振り返ったときに、決して間違っていたことはやってこなかったという確信がありました。しかし、私としては「これで良いのか?」という自問自答の繰り返しでした。そこで、この節目の年を迎えるに際し、今一度、本当に自分のやりたかった住宅会社をつくり上げることに再挑戦してみよう。それに残りの人生のすべてをかけてみようという思いが強くなりました。

その想いを一言で表現するなら「家をつくって下さった方々全員を幸せにする」でした。私たち家づくりに携わる者にとって、喜びとは何か、それは「あなたが一生懸命やってくれたから、こんな素敵な家ができました。私は幸せです。本当にありがとうございます」と言ってもら

えることではないでしょうか。それが自身の喜びとなり、さらに良い家づくりに励んでいくことで人間として成長できる、そして「こんな会社が世の中にあつたんだ。正直者がバカを見るが常だと思っていたけれど、世の中捨てたものではないな」と思う人が少しずつ増えてくること、より良い社会づくりにつながっていくのではないのでしょうか。周りの人々の心が変わっていくことが、良い会社をつくる意義であり、私たちの目指す「本当に価値ある工務店」の姿だと思います。そのためにもまず取り組んでいること、それが今まで以上に「棟一棟丁寧に、大切に家づくりをしよう」ということです。

また、家は安易につくれば良いというものではないと思うのです。手入れをしなが50年、100年と長く住み継げる家がこれからの日本には絶対に必要です。そのためにはやっぱり日本の気候風土に合った無垢の木と自然素材の家です。そして住み心地が良く省エネであるならば、住む人に愛され、子や孫の代まで受け継がれます。それが地球環境にとっても重要なことであり、これからの日本にとって必要な住宅会社だと思っています。これから日本の家づくりの主役は大手メーカーではありません。一棟一棟丁寧に、大切に家づくりをしようという思いを強く持ち続けてまいります。

(代表取締役 野崎進)

and
More 3

OB様とともにより良い未来をつくる

OB様WEBサロン

“ゆいの森”オープン!



SNSの投稿や
お客様紹介などで
ポイントが
たまるよ♪



「住む人を幸せにする、真っ直ぐでウソのない家づくり」を合言葉にOBの皆様とのコミュニケーションの場(WEBサイト)“ゆいの森”をスタートいたします。四季工房発信の、住まいに役立つ情報や会員限定イベント情報とOBの皆様がSNSへ投稿した(日々の暮らしや気づきなど)を紹介させていただく、双方向型のホットステーションです。たくさんの“楽しい”を共有して、一緒により良い家づくり、未来づくりをしていきましょう! “ゆいの森”の詳細については、同封の冊子をご覧ください。



#四季工房につけて
投稿してね!

「生きるために食うべし、食うために生きるべからず」キケロの名言

生きるためには、食べることをおろそかにしてはいけませんが、それは手段であって目的にしてはいけません。

よりよく生きるためには、カラダに良いものを食べて健康であることが第一です。

ここ日本でも、ちゃんとした食事をとることができない子供がたくさんいます。この現状を少しでも改善するお手伝いが出来たら...四季工房は、木育と共に食育にも力を入れて、こどもたちをサポートしていきます。ただ食べるだけではなく、自分の口に入る食べ物がどのように作られているのか?野菜はどうやって育つか?苗植え、収穫体験などを通して学ぶ機会を、今後増やしていけたらと思います。

6月初めに雪被害に遭いましたが、その後、元気に回復しています。



贈り物にいかがですか? ひかりファームの夏野菜

毎年好評を頂いているひかりファームの夏野菜、いよいよ収穫が始まります。味の濃い枝豆や甘味の強いとうもろこしなど、朝採れたてを発送いたします。ご要望など、お気軽にお問い合わせください。

ご注文 四季工房農園 ひかりファーム TEL.0247-55-3169 FAX.0247-55-3280
お問合せ (四季工房 平田加工場内 担当/瀬谷) ✉ hirata@sikikobo.co.jp

家を長持ちさせる秘訣は、日々のお手入れにあり!

住まいのお手入れ Vol.3

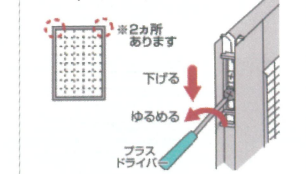
「網戸のお手入れのコツをお伝えします。」

網戸は、意外に汚れやすいもの。雨風にさらされた網戸には砂やほこりがたまっていますが、目立たないため汚れに気づきにくく、カビの温床になることも...。軽い汚れであれば、網戸を窓につけたままで、ブラシ付きノズルの掃除機で吸ったり軽く水拭きでよいでしょう。軽い拭き掃除で落ちにくい場合は、網戸を取り外してスポンジかブラシで軽く押さえるように水洗いしてください。窓に取り付ける前に十分乾燥させましょう。(汚れが落ちにくい場合は中性洗剤をお使いください。)

網戸を外すのが大変!という方には... 裏ワザをOB様 WEB サロン” ゆいの森” で紹介します!

網戸の外し方 (※網戸の復旧は逆の手順で行ってください)

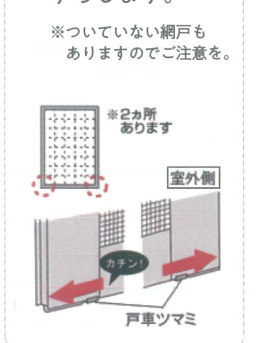
1 網戸上部の外れ止めを下げます。



2 網戸下部の戸車のつまみを外側にずらします。



※ついていない網戸もありますのでご注意ください。



夏期休業のお知らせ 8/10(水) ~ 8/17(水)

お盆休みとさせていただきます。皆様も熱中症などにくれぐれも注意して、楽しい夏休みをおすごしください。

and & More2



他社がマネできないオンリーワン! ウッドショックに負けない! 自社工場を持つ強み。

ここ二年間で家づくりのコストは約30%UPしているという統計があります。3千万円の住宅ならざっと4千万円となる計算である。ウッドショックによる価格上昇の中であって、四季工房のコストアップはその1/3程度に納まっている。抑えられている要素の大きなものは木材。

四季工房は早くから、構造材となる国産赤松や杉材の天然乾燥と製材工場を埴町に、そして床材や壁板材などは平田加工場(ゆい)に設けて生産を続けてきました。赤松の天然乾燥は日本中どの工場でも行っていないし、その品質と量は間違いなく日本一。また、床材は、自然素材の塗装まで自社で実施し、極めて高品質だ。外注すると、2倍はするであろうと思われます。過去に投資はしたけれど、今確実に四季工房の家が他社にマネができない品質と価格の両面で貢献していると言えるでしょう。

※埴町天然乾燥センターは現在は(株)松栄商事さんがすべて運営しています。



軽井沢に建築中の東京N邸のセカンドハウス

N様は当初、軽井沢を得意とするメーカーに建築を依頼するつもりでしたが、寸前でウッドショックになり、四季工房に打診がありました。(軽井沢のメーカーは外材の使用が主であったため、建築時期がいつになるかわからないと言われたそうです。)



エアバス工法は、常に壁体内を空気が循環しているため、住んでいない期間があっても、快適な室内環境と建物自体の健康を保つことができます。まさに別荘にうってつけの工法です。このセカンドハウスで、その効果をより実感していただけるのではないかと思います。

水回りをすべて檜の板材に

高品質の檜板材を壁、天井に張ることで、一気に高級感あふれる洗面と風呂に! 無垢板材は湿気を上手にコントロールしてくれます。



次世代がさらなる次の世代を育てる 出前授業 / 親子で楽しむ木工教室



中、高校生を対象としたSDGs出前授業を積極的に受けさせて頂いています。〇×クイズを交えて、家づくりを通して環境問題を考える授業と、若手大工さんによる木材を使った継手や組み方、鉋かけのデモンストラーションを行っています。次世代を担う若者が、子供たちに直にメッセージを伝えることで、大工さんが憧れの職業になることもちょっぴり期待しています!



未来の日本を担う子供たちに、木の持つ魅力や力を実感してもらうことで、日本人の感性を育んできた「木の文化」を継承して欲しい。そんな思いで、去る7月24日に第1回「親子で楽しむ木工教室」をゆいの郷、宮城、栃木、東京の4拠点で同時開催いたしました。4年ぶりのイベント開催となりましたが、木工品づくりに真剣に取り組む子供たちや、職人さんとの会話に花を咲かせるOBのみなさんの笑顔を見ることができて、開催して本当に良かったなと思いました。木工教室は、これからも継続して行なっていきます。次回もまた、たくさんの方にご参加いただけたらと思います。



長く住み継がれていく家



モノを大切に感じる気持ちに感動し、その気持ちに応える。
四季工房 初! 減築の家。

M様は2011年の東日本大震災の際に、住宅に大きな損傷をうけました。とくに2階部分の損傷がひどかったために、ほとんど1階部分で生活しながら改築の時期を探っていました。私(野崎)の高校時代の同級生だったこともあり、声をかけていただいた次第です。当初、2階建てを平屋に直したいとお聞きした際に、「たぶん新築で建てかえても、それほど値段は変わらないよ」と言うので、「35年前に自分で建てた家だから思い入れがあるんだよ。なによりこの太い木材がもったいないからこれを活かしてほしい」と言われました。いとも簡単に古い家を壊してしまう提案をする我が身を恥じ、長年かけて育つ木をもっと慈しんで家づくりをしていこうという想いを強くしました。



2階建てから平屋に減築

建築中でもエアバス効いて涼しい! /



差し鴨居と柱の再利用



※減築とは、増築とは逆に大きな建物を小さくする施工。これからはライフスタイルに合わせた減築も多くなってきますね。

1棟1棟ていねいに、お客様一人ひとりとしっかり向き合っ
てより価値のある家づくりに取り組んでいます。

SDGs

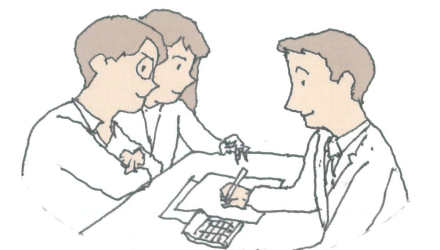
- 家づくりを通して環境問題への積極的な取り組み
長く住み継げる家、風土にあった家
住む人に愛される家
- 地域社会への貢献
森の健全化、若手職人の育成
- 次世代を育てる 木育、食育

and & More

- 1 より良い提案を考え、継続していく
- 2 他社にマネできないオンリーワンの家づくり
- 3 アフターメンテナンスの徹底と
OB様とともにより良い未来をつくる

and & More1

よりよい提案を考え抜く。
プランの再検討会、仕様提案書の作成



お客様の希望を叶えるということは、単に要望通りにつくることではないと考えています。しっかりとお話を聞いた上で、お客様が本当に必要としているものはなにか!をプロの目で考え抜きます。そして、お客様の考えを越える解答をご提案することだと思います。「任せて良かった!」と言ってもらえることが我が喜びです。

家と庭、
街との新しい関係をつくる



— 都心の小さな庭を楽しむ —

都市部の限られた敷地こそ、小さくても庭を楽しむ。それがより魅力的な住まいを創り出すことにつながります。小さな庭に植えた一本の木を通して、敷地の外の緑とつながる。その景色を窓越しに楽しむ。道路と建物とのわずかな隙間に緑を配して、街行く人をなごませる。景色を借りたり、貸したりすることで、住環境と共に美しい街並みにも貢献できる、庭にはそんな素敵な関係を生み出す力があります。だからこそ、四季工房は家づくりと同様に庭づくりにも力を入れていきたいと考えています。





お住まいになられて半年ほどになる藤田邸。
インタビュー：関根（営業担当）、加藤（外構担当）

藤田様が家づくりを考え始めたきっかけは、コロナウィルスの影響で自宅に居ることが増え、日々、自分たちの暮らし方を考えるようになったことからでした。ちょうど、お子さんたちも巣立ち、ご夫婦二人の暮らしが始まる時でもありました。奥様に対しての「今までありがとう、お疲れ様」というご主人の感謝の想いから、二人でゆっくりと寛げる家づくりへと向かったようです。

「はじめは興味本位で、展示場を覗いてみた感じでした」とご主人。白河展示場を見たあと、他の展示場も見たいとのこと、その日のうちに郡山の中央展示場へと足を運んでいただきました。十年ぶりに見た白河展示場（築十五年）は、国産無垢材の経年変化をとて美しく感じ、一方で郡山中央展示場は白河展示場とはまた違う雰囲気があり、間取りや色のコントラストをご夫婦共に気に入られたようです。その時初めて家づくりの具体的な話を聞いてみようと思ったそうです。「当時を思い出すと、ざっくりとしたイメージしかなかった家づくりが、いつの間にかあの場合から始まっていたね」と笑って話すご主人。

「スタートした頃は、予算はいくら位なのか、敷地のどこに建てられるのか、親は家づくりを許してくれるのかなど、解決すべき事が山ほどあり、どこから手を付けていいのかもわからない状態でした。」そこで、営業担当からの提案を受け、思い切って一度任せてみる事に。そこから一つひとつ問題を解決し、「プランづくりに入ったあたりから、ご主人のこだわりが炸裂していきましてね！」と当時を皆で振り返り、懐かしい気持ちになりました。

「建物をこんな感じにしたいんだよね」

ある日、藤田様が家づくりのモデルに考えている住宅の話をされた。それは高崎市美術館敷地内に移築された住宅で、建築家A・レーモンド氏が設計した旧井上邸でした。規模こそ違えど、この邸宅の要素をどうにか取り込みたいと考えました。外観の特徴は、平屋の「のびやかさ」と、アプローチを兼ねた深い庇、エアパス工法上、開口部だらけとはいきませんが、南側の庭に面して、リズムカルに大窓を設けました。間取りは、旧井上邸ではパティオを挟んで、居間と寝室に分かれていたように、藤田邸も土間を挟んでリビングと寝室を配しました。



実際に住み始めて半年が経過しました。大きく変わった事は、家にいる時間がとても増えたこと。引渡し時期が冬シーズンだった為、毎朝、薪ストーブに火を入れる事が日課となり、「寝起きから楽しくて、楽しくて仕方ありませんでした」と少年のようなご主人。奥様は、造作のオリジナルキッチンが使い易くお気に入り、「キッチンからの庭の景色も日々感動しています。」「住み始めて感じる事はたくさんありますが、その中でも睡眠の質が変わり、ぐっすりと寝れています」と仰って頂きました。ガラス建具やカウンター材の一部は、前の建物から再利用したもので、「そこを見るたびに愛着を感じている部分です」とのこと。当初計画では、ご夫婦二人で楽しむ家でしたが、今となってはご両親や娘さん達が来るたびに、自分の家のように長居するようです。とても居心地が良いようで、逆に困っていますと、苦笑いのご夫婦でした。

（営業 関根良一）

最後に藤田さんより。
今では、「人が集まる家」となっており、笑顔が絶えない場所となりました。四季工房さんとは、これからも長いお付き合いをしていきたいので、今後ともよろしく願いいたします。

新築探訪 藤田邸

土間スペース

冬の間は薪ストーブを楽しみました。
土間のやわらかな曲線が皆さんに好評です！



既存の庭を活かした外構

藤田様からのご要望は、「昔家の蔵で使われていた、地元産の白河石をどこか使って活かしてほしい」と「既存の庭を活かした、楽しめる庭が欲しい」ということでした。白河石とは福島県白河地方で産出される石で、白色・黒色の二色があり、小峰城（白河城）の石垣にも使われている非常に味わい深い、歴史ある石材です。

今回はその白河石を加工し、薪ストーブの壁や門柱の張り石に再利用。さらには、贅沢に、長いアプローチの敷石に使い、既存の庭との調和を計りました。庭も元々あった日本庭園に手を加え、池をビオトープに。ご主人が丹精込めて育てたメダカが放流され、庭に新しい生態系が生まれました。野鳥も集まり、住む人が楽しめる癒しの庭ができたと思います。

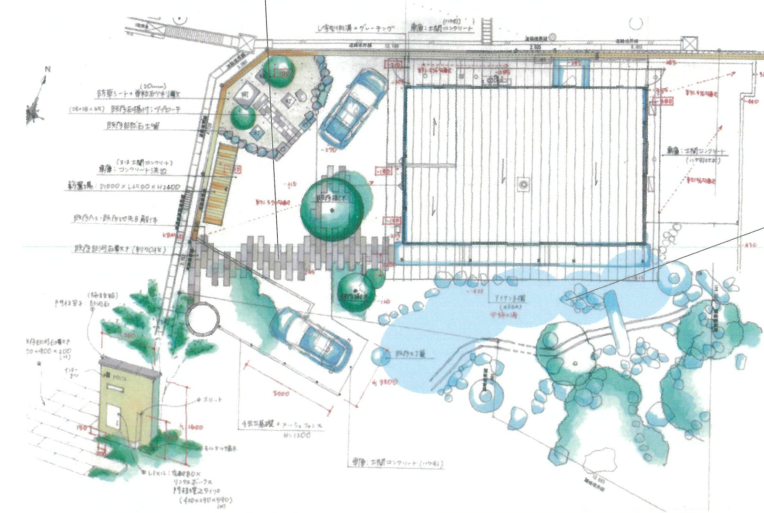
（ランドプラン 加藤友紀）



ビオトープ



アプローチ
再利用した白河石を敷石に。



夏におすすめのガラスのインテリア♪

日の光を透かして、キラキラと輝くガラスのインテリア。美しい透け感で、涼しげな音が響く風鈴や夏の食卓を彩るガラス食器など、涼しげに感じる小物たちをたくさん揃えてあります。

どうぞ、
夏のWSSAへ
涼みにお越しください。



クリームボックス、
冷やして食べても
美味しいよ！

工房菜 1周年

四季工房本社隣、カフェ工房菜が
8/8に1周年を迎えました。

これもひとえに、ご来店いただきました
皆様の支えがあったからこそ深く感謝
しております。スタッフ一同、心をこめて
おもてなしをさせていただきますので、
今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう
お願い申し上げます。

（オーナーシェフ 國分美枝子）

☎ 080-5846-3851 ※予約制
🕒 11:30～19:00 (18:00LO)
📅 週2～3日 (営業日はSNSで確認を)
📍 @koubou_shiori

